

今回で3回目の参加になりました。毎回会場の熱気と盛り上がり、色々な事が勉強になるので、楽しくもあり、「私も他の人に負けないようにもっと頑張らなきゃ!!」と、身が引き締まる思いです。



2008オーラルフィジシャンチームミーティング会場

他医院の先生や衛生士の講演、また患者側から見た歯科医療として、外部の方のお話がありました。

一番印象に残っているのが、Dan Ericson先生の講演の「いつ修復するか」という話です。簡単に言うと虫歯治療はいつ行なうと良いかということです。私が学生の時に習ったのは(10年前です)「早期発見、早期治療」というのが基本でした。小さい虫歯を早くみつかる事が重要で、綺麗に治す事が良い治療だと思っていました。

Dan Ericson先生の話によると、虫歯が得意な「歯と歯の間の虫歯」は治療が必要になるまで8年かかるそうです。しかも、治療をしてもしなくても同じぐらいの期間がかかるそうです。それなら治療をしなくてすむようにその8年間で出来る事があるはず。歯磨きも必要ですが、特にフッ素入り歯磨

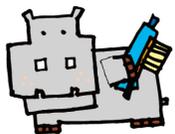
き剤の継続使用が重要です。フッ素は地球上で17番目に多い元素で、土や水の中に含まれていたり、緑茶やワカメ、エビやイワシなどの海産物にも多く含まれています。歯が丈夫になり、ミュータンス菌が出す酸に溶けにくい強い歯をつくる働きがあります。フッ素は歯に吸収されるので、磨き残しがある所に使っては効果が弱まります。そのため、フッ素を塗る前にしっかりと歯を磨く事が必要です。

外国で使われている歯磨き剤は高濃度のフッ素(5000ppm)が入っているものがありますが、日本ではそのような物はありません。濃ければ濃いほど良いというわけではありません。一番は毎日続けて使う事です!!

これからも美味しい食べ物を自分の歯で食べてもらえらるよう、素敵な笑顔でいてもらえらるよう、そのお手伝いをしなくては!! と心に誓った日になりました。

動が活発で1回目の虫歯になり詰め物をする。となったそうです。

①と②を比べると②を希望する方がほとんどだと思います。しかし、虫歯の穴があまりにも大きかったり、激痛がある場合は治療が必要だと思います。「自分の歯に勝るものはない」その言葉に同感です。すぐに虫歯の治療をしても、詰め物にも寿命があるので、何回も自分の歯を削って詰め物をするよりも、虫歯になりかけの歯にフッ素を塗って予防していた方が良いなと思いました。



## 歯科助手・

### トリートメントコーディネーター

河林仁美

みなさんこんにちは、河林です。私たちは7月2日〜6日まで山形の酒田市に、勉強をしに行ってきました。主に講義をきってきたのですが、その中で勉強になることが沢山ありました。

私が一番に残った言葉があります。「補綴(レジン、インレー、クラウンなどの歯の詰め物、被せ物)をするより、予防することのほうが価値のあることだ。天然歯に勝るものはない。」という熊谷先生の言葉です。すごくシンプルなことです。

今までの一般的な「虫歯の部分を早期に見つけて、削って治す」のではなく、「最小限に削って修理する」。またそこから「進行をストップ」し、「予防」していく、という考えは、なるほど勉強になりました。

今回は3日間にも亘る長いミーティングでしたが、中身は濃くとても充実した内容でした。

特に、勉強になったのはスウェーデンマルメ大学の齶蝕予防(虫歯予防)講座教授のダン・エリックソン先生のお話です。虫歯になったからと言ってすぐに治療しても、詰め物は約10年前後しか持たないのだから、ギリギリまでフッ素で予防していきましょう、との事でした。

歯の場所にもよるそうですが実際の研究の結果は、

- ①虫歯になつてすぐに詰め物をして8年後：磨き残しや、詰め物に亀裂が入り、2回目の虫歯(二次カリエス)になって、また詰め物をする。
- ②虫歯になつていても、フッ素入りの歯磨粉やフッ素ジェルを利用して8年後：虫歯菌の活

ひるま矯正歯科では予防をしっかり行なっています。少しでも興味を持たれた方はスタッフまでお気軽にお尋ね下さい。スタッフみんな、沢山のお話ができると思います。

一緒に歯を守って、今ある天然の歯で一生噛めるように頑張っていきましょう。



チームミーティング終了後の夕食を酒田市内のレストランで